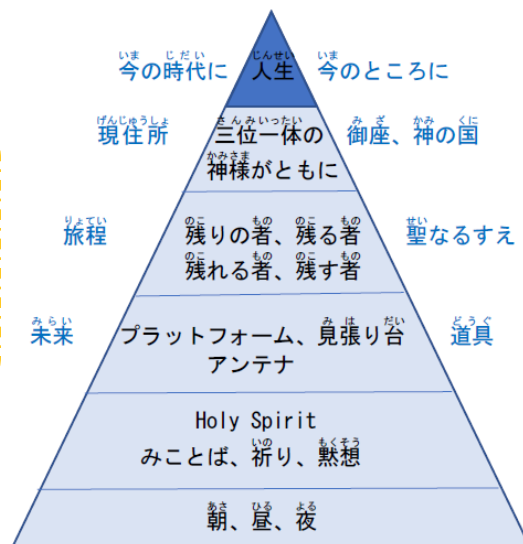


さん みいつたい かみさま わたし とお けいやく  
三位一体の神様がともにおられ、私たちを通して契約の  
りよてい あゆ みらい い どうぐ もち  
旅程をともに歩んでくださり、未来を生かす道具として用い  
てくださっているということです。私自身がなにかができる  
のではなく、かみさま そな  
神様がすべてを備えてくださっていること、そ  
れが9月の学院福音化のメッセージの核心の内容です。



#### 4 課 弟子たちの水準に対するイエス様の教訓

フォーラムの内容：水準ではなく信仰を願われるイエス様

そうせいき しょう ぜんあく ちしき き み じけん しそん  
創世記3章の善悪の知識の木の実の事件のあと、アダムの子孫のすべての  
人間は、自分自身が神になって、善悪の判断をする主体者として生きようとして  
います。



かみさま てん おう おう おう  
神様はだれでしょうか。天の王で、王の王です。

にんげん かみ い じぶんじしん おう い  
人間が神になろうとして生きるといことは、自分自身が王として生きようとするこ

これが、創世記3, 6, 11章の「自分中心、物質中心、成功中心」です。



ほか わたし も たか のぼ  
他のだれよりも、私 がもっとたくさんのものを持って、もっと高いところに登りたいといこ  
とです。

かみさま はな ひと かんしん  
これが、神様から離れたすべての人の関心です。

でし おな しやう せつ み  
弟子たちでさえも、同じです。マタイ18章1節を見ましょう。

マタイ 18:1

そのとき、弟子たちがイエスのところに来て言った。「それでは、天の御国では、だれが一番偉いのでしょうか。」

この弟子たちの質問に対するイエス様の答えが3, 4節です。

マタイ 18:3-4

3 言われた。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたも悔い改めて子どもたちのようにならない限り、決して天の御国には、入れません。

4 だから、この子どものように、自分を低くする者が、天の御国で一番偉い人です。

イエス様の答えは、「子どものように純粋でなければ天の御国に入ることはできない。子どものように自身自身を低くして、謙遜になれば、偉い人になれる」という意味ではありません。

### 1. イエス様を信じて従順に従う子ども

ここで、イエス様が言われている「子ども」というのは、まだ、おむつもとれない、そのくらいの子どもです。

2 歳から3 歳くらいの幼稚園の年少組の子どもくらいです。

18 章 2 節を見てみましょう。

2 そこで、イエスは小さい子どもを呼び寄せ、彼らの真ん中に立たせて、

ここで「小さい子ども」と言われています。



もし、だれか知らない人が、小さな子を突然呼んで、多くの人の前に立たせた、その小さな子がみなさん自身だと考えてみましょう。どうでしょうか。

最近では、大人に声をかけられたら、答えてはいけないと学校で教えていますが、声をかけられたら、こわく逃げたりするでしょう。

この聖句で出て来る子どもは、イエス様が呼ばれたとき、従順に従いました。



救いとは、そういうことです。

私たちが持っている資格や熱心さは関係なく、イエス様が願われ、呼ばれた人たちは、あるがままの姿でそのままイエス様に従順にして出て行くのです。

私たちが、そのようにイエス様に呼ばれて出て来た者です。

みなさんは、おむつをしていた時代のことは、まったく覚えていないでしょう。

もしお父さんやお母さんが、おむつを替えてくれるときに、「ああ、はずかしいです。もうしわけないです。まだ私がこんな状態で」と言って「あしたからは、努力して10回替えてもらっていたのを、7回くらいに減らせるようにします」と言う子どもを見たことはあるでしょうか。

そのような考えをすること自体、子どもではないでしょう。

お父さんやお母さんにとって、子どもはどんなことをしていても、かわいく、愛らしいです。

特に子どもが親のことを信じて、従ってくれるなら、ほんとうにかわいく思います。

そのような子どものことを言っています。

## 2. イエス様ご自身のこと

18章5節と6節を見てみましょう。

5 また、だれでも、このような子どものひとりを、わたしの名のゆえに受け入れる者は、わたしを受け入れるのです。

6 しかし、わたしを信じるこの小さい者たちのひとりにでもつまずきを与えるような者は、大きい石臼を首にかけられて、湖の深みでおぼれ死んだほうがましです。

この2つの節は、マタイ福音書18章の前半1節から14節の中で、いちばん核心になる重要なことばです。

5節の「このような子ども」は、6節で「わたしを信じるこの小さい者たち」と言われています。

つまり、

「だれでも、わたしを信じるこの小さい者たちのひとりを受け入れる者は、わたしを受け入れるのです」ということです。

ここで言っている内容は、そのような姿でイエス様が来られたということです。

イエス様自身のことを言われているのです。

このような子どものような姿で、イエス様は父である神様のみこころに従って、子どもの姿で来られました。イエス様は赤ん坊の姿で、この世に来られ、そして、親に愛される、従順に従う者として育ちました。そして、十字架につけられて死ぬまで、父なる神様に従順にされました。

4節をもう一度見ましょう。

4 だから、この子どものように、自分を低くする者が、天の御国で一番偉い人です。

イエス様だけが天国でいちばん偉い人です。

イエス様だけが万物の主人です。

イエス様だけが教会である私たちの頭です。

それゆえ、頭であるイエス様だけが、教会とこの世をゆるし、いましめることができます。



これが4課の2番目の内容です。

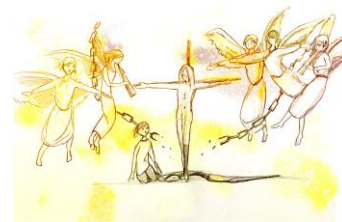
## 3. イエス様が立ててくださる



ですから、レムナントのみなさんは、イエス様をみなさんの人生のすべてにおいて、主人として、キリストとして信じ、告白するとき、その信仰のゆえに、みなさんは霊的サミット、技能サミット、文化サミットとして「イエス様が」みなさんを立ててくださいます。

これが4課の3番目の内容です。

さいご 最後にピリピ 2 章 6 節から 11 節を読みましょう。



6 キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは 考 え ず、

7 ご自分を無にして、仕える者の 姿 をとり、人間と同じようになられました。

ひと としての性質をもって現われ、

8 自分を卑しくし、死にまで 従 い、実に十字架の死にまでも 従 われました。

9 それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。

10 それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが、ひざをか  
がめ、

11 すべての口が、「イエス・キリストは主である」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。

がつ さいご 9 月最後の 1 週 間、このみことばを握って黙想して勝利する ことが できるようにお祈りします。

みなさんの水 準 とは関係なく、みなさんの生活のすべてのところで、イエスがキリストであり、主であるこ  
とを告白しましう。